

鹿児島市学校教育研究大会 研究実践経過中間報告

鹿児島市立松原小学校

<p>研究テーマ</p>	<p>「学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る授業の創造」 ～算数科におけるICT機器の効果的な活用を通して～</p>
<p>主題設定の背景</p>	<p>本校では、平成22年度より「学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る授業の創造」～算数科におけるICT機器の効果的な活用を通して～というテーマを設定し、算数科の授業の中でICT機器を効果的に活用することで、これらの課題を解決し、それぞれの児童に対するより充実した指導・支援を実現させることで、算数科における学ぶ意欲の向上と基礎学力の定着を図ることをめざし研究を進めている。 1年間の実践の中で、児童の数学的な思考力・表現力を育成する必要性が強く感じられるようになり、本年度から数学的な思考力・表現力の育成に関する仮説も加えて研究を進めることになった。</p>
<p>研究の視点</p>	<p>【仮説1】 指導法改善としての活用 ICT機器を適切に選定し、授業の中でICT機器を効果的に活用できれば、児童の学ぶ意欲が高まり、基礎学力を定着させることができるのではないか。</p> <p>【仮説2】 児童：学習用具としての活用 教師：環境の設定 授業において児童がICT機器を活用し自ら学ぶ場や高めあう場を適切に設定すれば、児童の学ぶ意欲が高まり、基礎学力を定着させることができるのではないか。</p> <p>【仮説3】 数学的な思考力・表現力を育成する場を、意図的、計画的に、指導過程の中に位置づければ、児童の学ぶ意欲が高まり、基礎学力を定着させることができるのではないか。</p>
<p>研究推進体制 の状況 (組織等)</p>	<div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進組織 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進委員会 主に理論研究をすすめ、学年部会に提示している。 メンバー：研修係・教務主任・教育方法係・算数部員・学年部世話係（低・中・高より各1名） ※ 今年度より算数部員を研究推進委員会に入れることで算数科の教科指導面についての意見を研究に活かすよう改善している。 ・ 全体会 研究推進委員会でまとめた理論について、全体で話し合い、共通理解・共通実践事項を確認する。 ・ 学年部会 世話係を中心に、理論をもとに実践を進めながら理論の検証を行う。研究授業や実践報告等を分担して活動している。

研究の推進状況

【研究理論の構築】

- ・ 研究推進委員会において研究理論の構築を進めている。
- ・ 児童の実態調査，分析を進めている。

【ICT機器を積極的に活用した日々の授業実践】

- ・ 研究仮説をもとにしたICT機器を積極的に活用した授業実践を行うようにしている。
- ・ 研究授業（6月2年，10月4年，11月5年）を通して，仮説の検証を行い，日々の授業の改善・充実を図ることを計画している。
- ・ ICT機器活用に関する実践報告会（2月 予定）を通して，本校独自の実践事例を集約し，研究のまとめに生かしていく計画である。

【共通実践事項の確認と即時実践】

- ・ 研究授業・授業研究の際に提案・協議された事項で，実践可能なものについては，共通実践事項とし即実践させることにしている。
 - ◎ 今年度の共通実践事項
 - ・ 算数コーナーの設置 ・ 3分割法による板書
 - ・ フラッシュ教材やカードによる用語の定着
 - ・ 自分の考えを言葉で説明するためのワークシート，ノート
 - ・ 用語を正しく使い，自らの考えを表現できる場の設定 など

【ICT機器活用の実技研修を定期的・継続的な実施】

- ・ 教育方法系の協力を得て，職員研修の時間以外にもICT機器活用実技ミニ研修を実施している。

共 通 実 践 事 例

【算数コーナー】全学級で設置

学習のポイントとなる用語，公式などをまとめる。前時までの学習を生かして新しい課題を解決するためのヒントコーナーとして活用する。

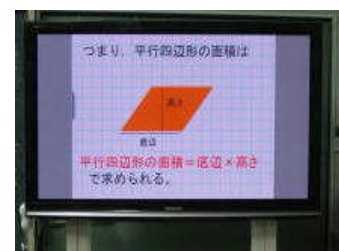
【3分割法による板書】全学級で実践

どの学年でも共通した板書をすることで，スムーズな思考の流れを定着させる。黒板を3分割し，左を「課題把握・活動を見通す段階」，中を「自力解決する段階」，右を「まとめ・活用する段階」として板書する。

【フラッシュ教材による用語の定着】学年の実態に応じて実践

導入時に活用する。本時の学習のポイントとなる前時まで学習した用語や公式，考え方について振り返る。特に図形領域では，アニメーションを活用することで効果的に振り返りを行うことができる。

用語の定着に関しては，フラッシュ教材の活用にこだわることなく，カードや短冊の活用などアナログ教材も積極的に活用している。



共通実践事例

【ワークシート・ノートの工夫】ワークシートとノートの使い分け：学年の実態・単元に応じる

自力解決をする場面では、自分の考えを用語を適切に使いながら文章で説明する部分をつくる。使わせたい用語については、導入段階でフラッシュ教材やカード等で提示するなどの手立てをとる。【用語を正しく使い、自らの考えを表現できる場の設定】

児童が自力解決をしたことの整理をするために、用語を正しく使い自らの考えを説明する場面を設定する。

【聞き手を意識した発表ができる場の設定】全学級で実践

全体で発表する際には、書画カメラを利用し大型テレビにノートやワークシートを提示する。その際、発表する児童がテレビ画面を見ながら発表するのではなく、手元のノート・ワークシートと聞き手を見ながら発表することができるように書画カメラの設置法を工夫している。書画カメラは、発表用の台や机を準備し、発表者が聞き手の方を向きながら発表できるように設置している。

また、高学年では、児童が書画カメラやパソコンの機器操作もしながら発表ができるように、学年に応じて機器操作の手順を学ぶようにしている。



研究授業指導案

第1回	6月	第2学年	『長さ』	指導案
第2回	10月	第4学年	『面積』	指導案
第3回	11月	第5学年	『面積』	指導案（準備中）